

かわらばん 妻入り

事務局
新潟県出雲崎町
教育委員会
☎0258-78-2250
FAX 78-4559

【先進地視察】

旧山北町「小俣宿」へ

去る11月22日(日)に、街並保存活動の先進地視察として、村上市(旧山北町)の小俣集落を訪ねました。

小俣集落は、かつて出羽三山詣での街道として知られた「出羽街道」の宿場町「小俣宿」として栄え、現在では、各家に家印・屋号看板を掲げ古民家を活用した町づくりに取り組んでいます。

当協議会では、平成13年に同集落を視察しましたが、今後の協議会活動として屋号・家印看板の整備を計画しており、そこで今回2

度目の視察を行いました。

今回の先進地視察に参加された方の感想を紹介します。

先進地視察に参加して

木折町 長谷川 隆

今年の視察地は、出羽街道の「小俣宿」でした。平成十三年に一度訪問しております。この度は、我が協議会も整備を考えております「屋号及び表札」の整備完了という事での再度の視察という事になりました。

あちらの街並協議会にあたります「小俣ふるさと楽校(がっこう)」の板垣さんから案内、説明を受けました。平成九年には、県の「一村一価値づくり」事業の優秀賞を



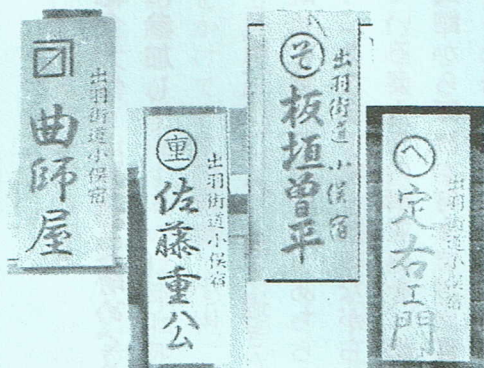
受賞しておられます。

ふるさと楽校は、まちなみ楽級(がつきゅう)とふれあい楽級の二つからなり、生徒数は、集落の皆さん三十一名により活動されています。

まず、まちなみ楽級は、屋号、表札を作り、全世帯に整備を完了しておりました。先回訪問の際はまだ2、3軒でしたが、現在は全て完了されておりました。寸法も長さ六十cm、巾二十五cmと大きく、家紋、屋号が入り、見ごたえのあるものでした。出雲崎に当てはめると、少し大きいかとも感じました。又、ふれあい楽級の方は、

市場を継続的に開設しておられ、郷土料理を出されたり、小俣宿のPR、「そば打ち」などの体験メニューも整備されておられました。ちなみに、当日の昼食も、三人のお母さんによる手作りで、とてもおいしくいただきました。

最後に、先進地視察に参加して毎回思う事は、三、六kmと続く出雲崎の妻入の街並の事です。全国的にみても、どこにもないこの街並を誇りに思うと共に、なんとか、住みながら、保存、活用し、多くの人に楽しんでもらえる街づくりを進めていきたいと強く思いました。



【出雲崎総合大学】 出雲崎史跡めぐり

去る10月17日(土)に、出雲崎総合大学の講座として「出雲崎の史跡めぐり」が開催されました。

当日は19名の方が参加され、妻入りの街並を歩きながら、出雲崎の歴史に触れておられました。参加された方の感想を紹介しましょう。

総合大学「出雲崎の史跡めぐり」に参加して

藤巻 遠藤 達実

この春、職場を定年退職し、差し当たってすることもなくなつたので刺激を求めて公民館主催の総合大学に入講しました。

初回の講座は「出雲崎の史跡めぐり」で旧西越地区をかなり広範囲に見ることが出来ました。2回目の史跡めぐりは10月17日で、羽黒町から尼瀬諏訪本町までを歩い

て見て回りました。

この地区は神社仏閣が20カ所以上ありますが、いかに由緒ある地区であったか、また栄華を極めた時代があったかを伺い知ることができました。当初2時間くらいを予定を1時間ほどオーバーしましたが、私にとっては新しい発見の連続で3時間はあつという間で、まるで初めてこの妻入りの町並みを見るかのようにキョロキョロと見回しながら歩いておりました。妻入りの町並みは整然と連なり、



しつとりと落ち着いた印象でした。人通りも少なく、華やかさは感じられませんが、今回のように20人くらいのグループで、丁寧な説明を聞きながらゆっくり歩いて巡るのも今までにない観光の仕方ではないでしょうか。大勢の観光客が賑やかに町中を練り歩くという様子は、この妻入りの町並みには似合わないと感じました。

全国的にも珍しく、しつとりと落ち着いた感じのする妻入りの町並みを、丁寧な説明を聞きながら時間を掛けて、ゆったりと巡る、を謳い文句に観光に取り組むのもひとつの方法ではないでしょうか。それには、今回案内してくださった磯部友記雄さんのような語り部を育てること、大小たくさんある史跡に目立つ看板を設置することが大切だと思います。

今回、妻入りの町並みの約3分の1を見て回りましたが、残り3分の2の散策を楽しみにしております。

総合大学「出雲崎史跡めぐり」に参加して

川西 小山 晴代

日頃、なにげなく通り過ぎたり、観光客気分になって、あちらこちらにある立て札を読みながら歩いている妻入りの街並みを、海岸公民館から諏訪本町まで、出雲崎ふるさと語りべの磯部友記雄氏の解説をお聞きしながら3時間近くを使つて歩く機会に恵まれました。

今の妻入りの街並が、多くの商家の建ち並ぶにぎわいであつたことは、軒下にさがっている屋号が教えてくれましたし、職人技の鍔絵をみることもできました。芭蕉園の場所には、大正元年、出雲崎月報社のちの中越新報社があり、昭和17年まで週1回新聞を発行していたそうです。

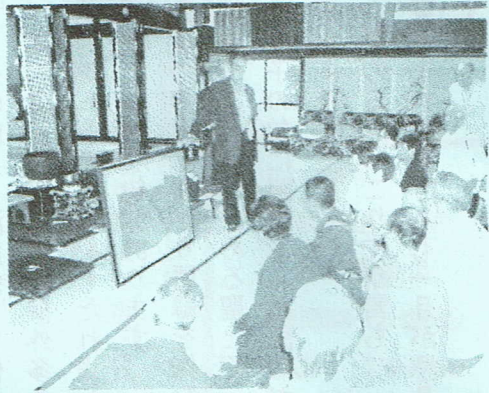
妻入り住宅が棟割長屋のような利用の仕方もあるとは、小路に入つて、説明をきくことではじめてわかりました。

妻入り会館ではあたたかいお茶

の接待を受け、一休みしながらこの建物のなかでの以前の生活に思いをはせることができました。

天領の里であり、良寛さん誕生の地というぐらいの思いしかありませんでしたが、長い歴史を持った出雲崎であることをあらためて感じることができました。湊町としての往時の繁栄、史料でしか名前が残っていないお寺の多さ、羽黒町に回り舞台を備えた劇場があったことも、それだけの人口があり、歴史の背景があったからこそ今の妻入りの街並みがありました。今は静か過ぎる街並みがどんなにか活気のある街だったかを想像することはなかなかできませんが、街並みを歩くことで昔の人の生活をしのんだりすることができたのは、その場で説明をしていたのだと思います。

住んでいる町の昔を振り返れた貴重なひとときでした。



妻入りの街（三十七）

住吉町 磯野 猛

人物往来 佐藤 耐雪

良寛さまを広く世に知らしめた佐藤耐雪翁は本名を吉太郎といい、尼瀬で明治九年に出生されました（以下親しみをこめて耐雪さんと呼びます。）

耐雪さんは良寛さまの顕彰だけでなく、出雲崎の歴史研究でも長い年月の調査の結果『出雲崎編年史』（上中下三巻）を世に送り出しておられます。原稿用紙六千枚に

及ぶ郷土史の金字塔です。耐雪さんが若いころから郷土史に関心を抱き町内だけでなく県内各地の史料も調査された集大成なのです。

その内容は出雲崎の先史時代から中世・近世・近代に及ぶもので、特に良寛さま関係のものは後世の人たちのため、詳細に記述されました。この労作は昭和二十五年に完成したのですが町の文化事業に熱心な耐雪さんは良寛顕彰に打ち込み、良寛記念館設立へと多忙な日々を送られます。

大正十一年（一九二二）に完成した良寛堂の大事業を手がけた耐雪さんが生涯かけての良寛さま顕彰実現のための仕上げが財団法人良寛記念館でした。耐雪さんの歩まれた軌跡の幾つかを誌しますと次のようなものがあります。

良寛堂設立。私財を投じて集められた良寛関係の遺品、遺墨を寄贈して作られた「良寛研究室」。出雲崎の史跡保存の重点としての『芭蕉園』。江戸幕府の天領時代の

「代官所跡」など数えればまだ多くあります。その総仕上げが昭和三十七年に始まった「良寛記念館」の設立運動でした。

耐雪さんのひたむきな情熱は多くの人たちの賛同を招き町だけでなく新潟県に及びそれが全国へと広まり大きい輪が後押しするようになりました。

昭和三十一年、文部大臣より「財団法人良寛記念館」の認可がでるとこの大事業達成のための耐雪さんの猛運動がはじまります。

昭和三十三年現在の場所に建設が始まります。その資金集めにも多くの人たちが参加して耐雪さんを中心とした運動が順調になつていった昭和三十四年、過労のためもあって健康を害され翌三十五年一月二十七日、志半ばにしてこの世を去られました。八十五年の生涯をかけての文化活動でした。この記念館が完成するのは昭和四十年です。良寛記念館開館式に参加された良寛愛好家の皆さんが口を揃

えて、この場に耐雪さんのおられないことを残念がっておられました。

私利私欲を捨て全精力を傾けての生涯でした。

耐雪さんの文化活動は後世に語りつがれるべき偉大なものです。

また次のようなこともありましたが、出雲崎は漁業の町としても明治・

大正・昭和と歩んで来ましたが、

明治・大正のころは鮮魚商と漁業者の間で取引方法について時々トラブルが生じておりました。とき

には大きな紛争もあったようです。その対立が町の産業の障害になる

ため耐雪さんは両者のために「水産品評会」や「物産品評会」など

を開催して両者の対立をなくすために羽黒町と石井町の裏浜に「販

売所」を設立して漁業者と鮮魚商の取引が公正になるような組織を

作られました。この「販売所」という呼び名については、昭和四十

年代に尼瀬へ移った漁協の市場を今でも「ハンベジヨ」という呼び



方をする人が多くおります。

耐雪さんの文化活動の一部で、俳人としても現在の俳句会の「渚

会」とその前身「涛声会」を作られ、高浜虚子や河東碧梧桐外多

くの著名俳人とも交友をもたれました。次のような句があります。

良寛の御壽あやかり屠蘇を掬む
朝寒やこの浦が生める聖とぞ

高浜虚子の句に耐雪さんを詠んだものがあります。

良寛の日向ぼこりや耐雪も良寛さまも耐雪さんも一月が忌月

です。良寛の忌に重なりて耐雪忌

渚会

お知らせ

北国街道妻入りの会館

天神様展示

1月28日(木)から2月25日

(木)まで、妻入り会館にて出雲崎町内の有志の方からお借りした天神様を展示します。

明治・大正時代に出雲崎の農業振興に尽力され、画家としても活躍された諸橋湘江氏の作品も展示する予定です。是非この機会に妻入り会館にお越しください。

また、「天神様」をお持ちの方で、貸していただける方がいらつしやいましたら、教育委員会(78-2250)までご連絡をお願いいたします。

尚、展示期間中に天神様についての講演会を開催する予定です。詳細は後日お知らせいたしますので、お楽しみに!

あ と が き

新年あけましておめでとうござ

います。
紅白二年つづけてのジェロさんの出場おめでとうございます。町民一同たいへん喜んで

います。

ところで、今地球温暖化で異常気象になって

います。自分たちで出来る省エネについて考えてい

なければならぬ時期になってい

ます。エアコン・ストーブのきめ細やかな温度調節やガスの炎の出

し過ぎには気をつけて下さい。暖房を使う時期は、火災の発生が非

常に多くなります。ストーブの上に洗濯物を吊さないで下さい。ス

トーブに灯油を入れる場合は必ず火を消してからにして下さい。こ

の二点が冬の火災の最も多い火災原因であります。楽しい新年を過ぎすためにみんなで気をつけま

石井町 納谷 稔